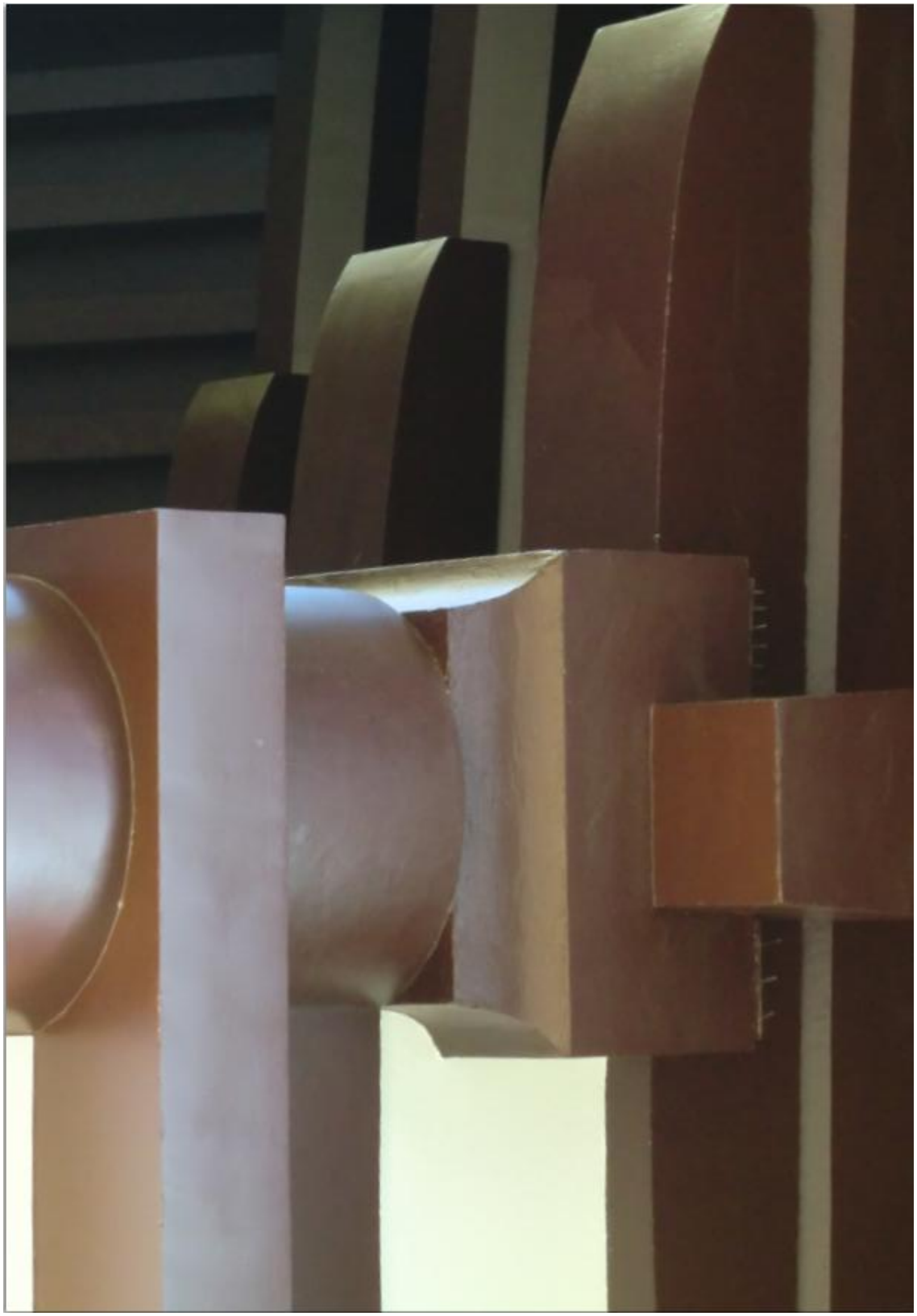
興福寺

国宝館/設計:大岡實建築研究所

法　隆　寺

国　宝　館

「廃仏毀釈」で壊された「食堂（じきどう）」跡に建築された「国宝館」です。国宝館は以前ありました建築様式、左側の建物が細殿、右側が食堂という建物が二つ並んだ「双堂」形式で復元されました。



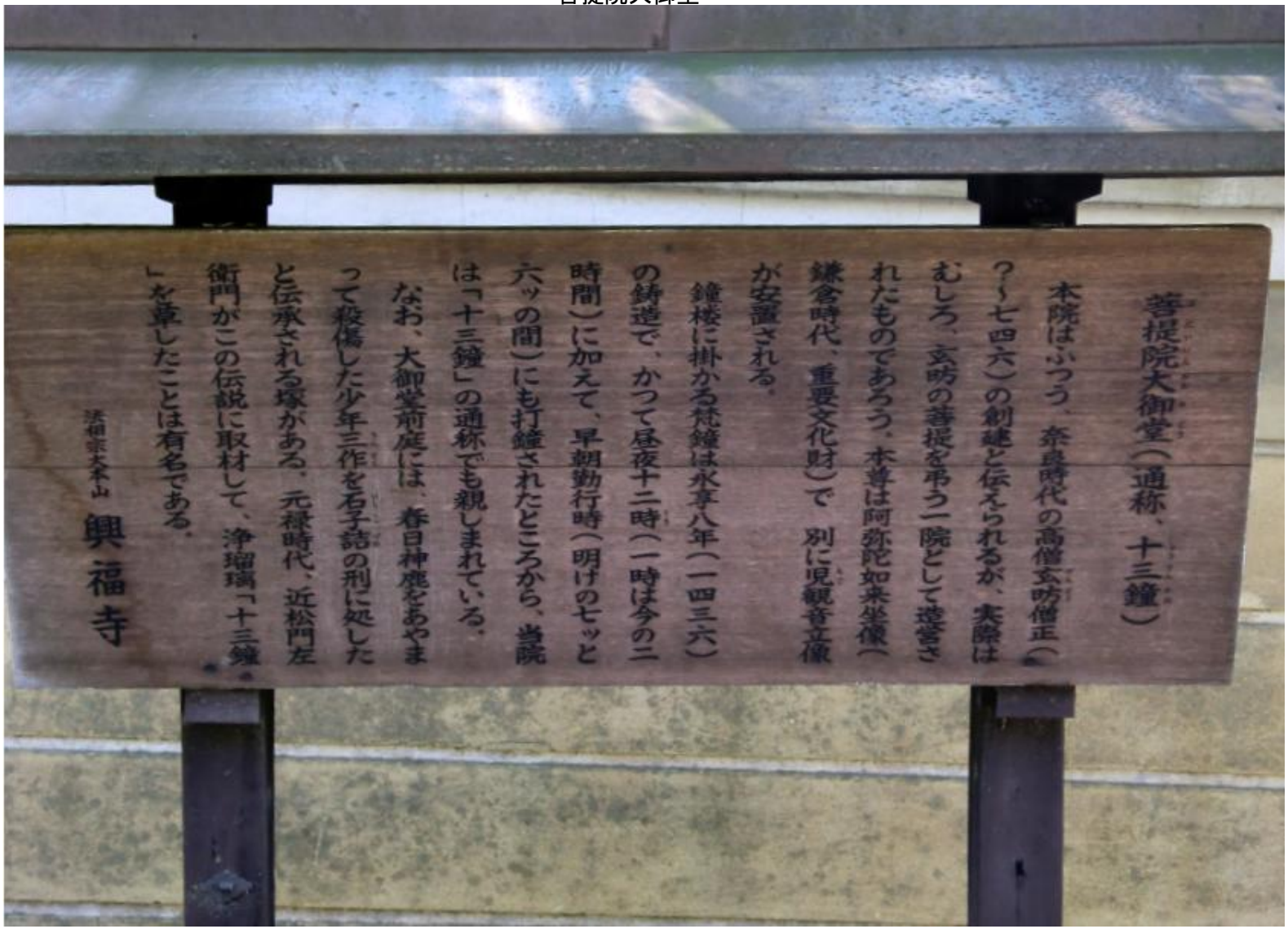
仮金堂/設計:大岡實建築研究所

『「仮金堂」は「薬師寺の旧金堂」を講堂の跡地に移築したものです』

中金堂再建現場

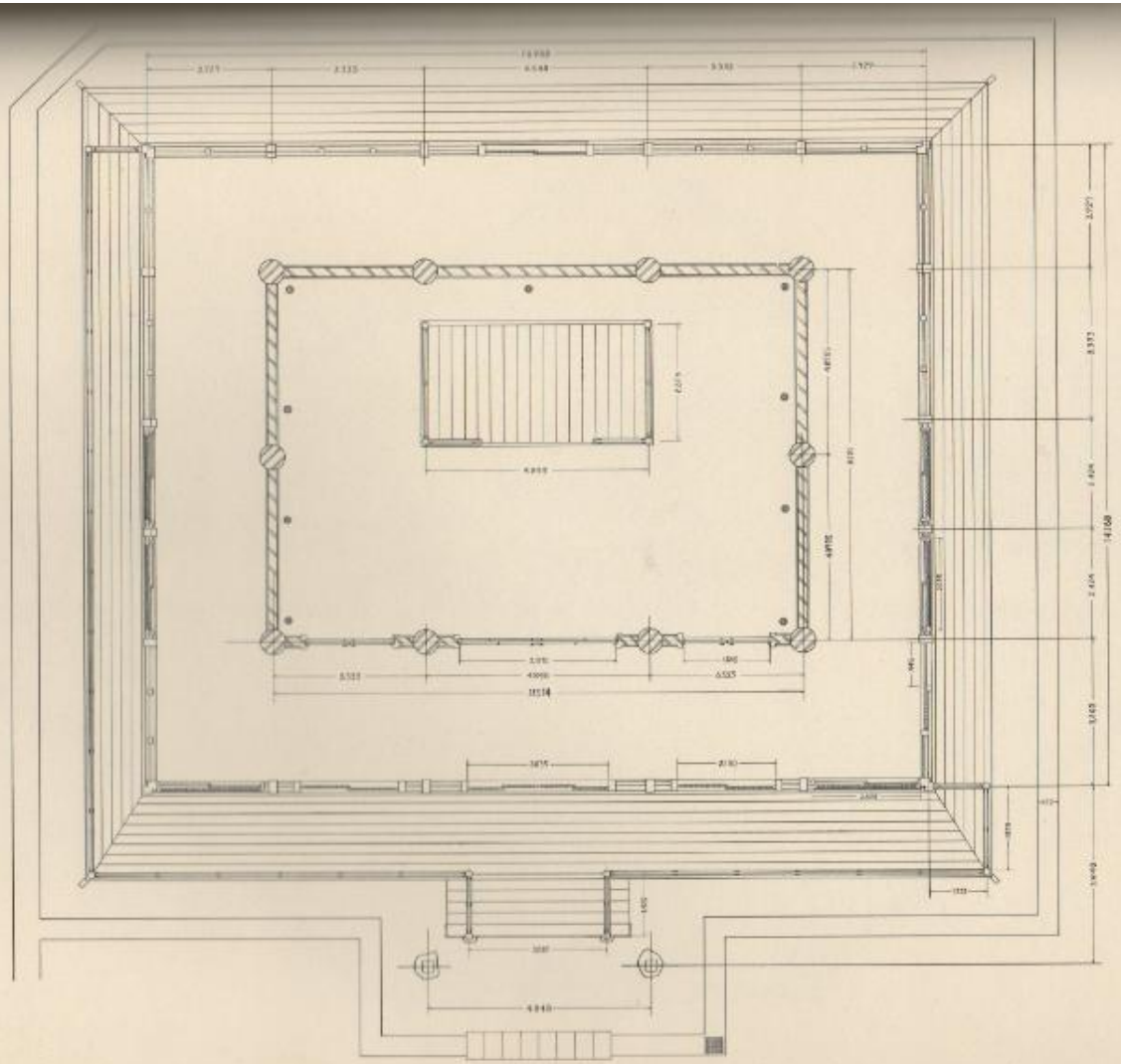
興福寺
中金堂平成再建工事
平成30年落慶予定
興福寺 中金堂再建

菩提院大御堂

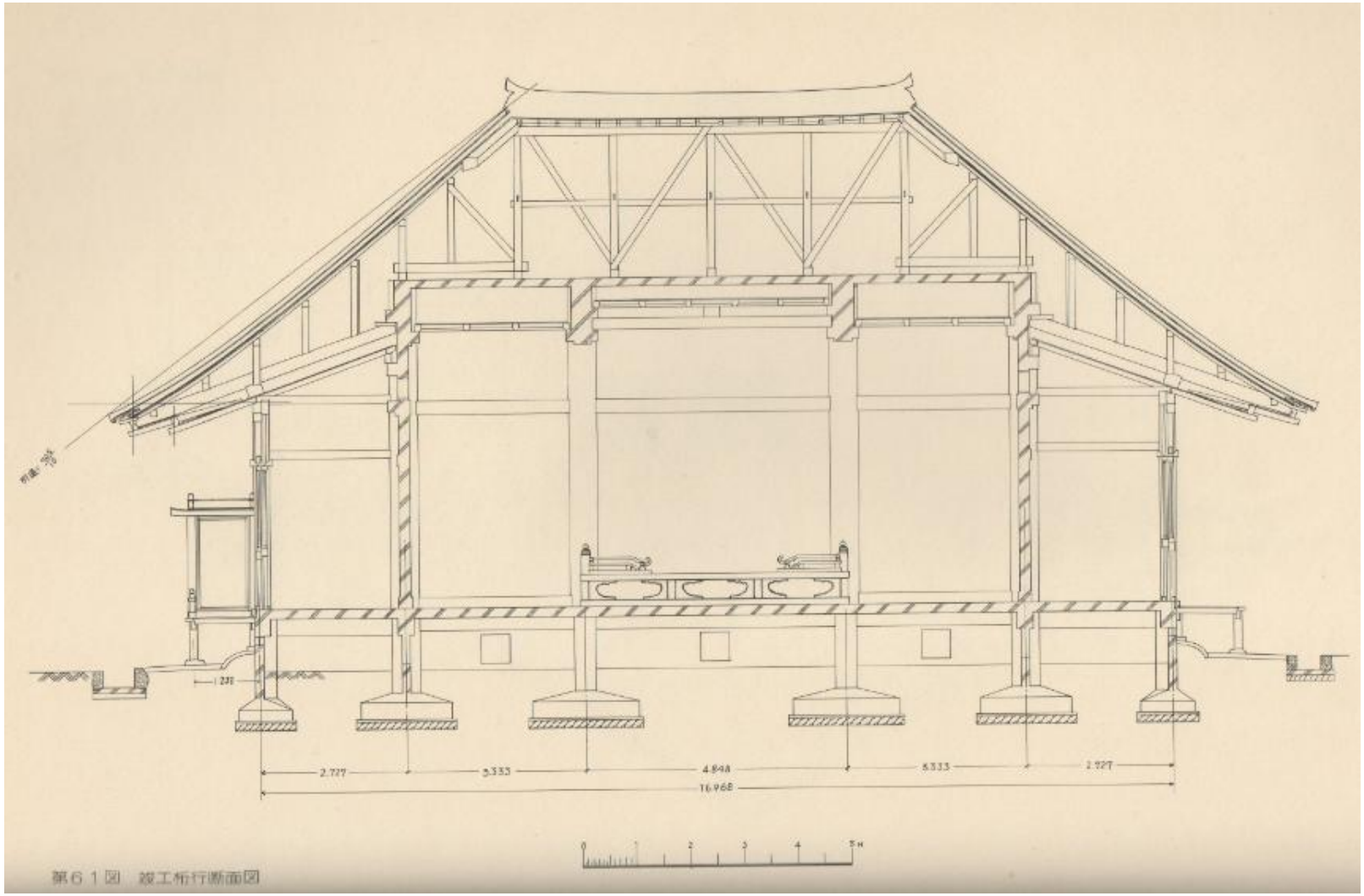

菩提院大御堂（通称、十三鐘）
本院はふつう、奈良時代の高僧玄昉僧正（？～七四六）の創建と伝えられるが、実際はむしろ、玄昉の菩提を弔う一院として造営されたものであろう。本尊は阿弥陀如来坐像（鎌倉時代、重要文化財）で　別に児観音立像が安置される。
鐘楼に掛かる梵鐘は永享八年（一四三六）の鋳造で、かつて昼夜十二時（一時は今の二時間）に加えて、早朝勤行時（明けの七ッと六ッの間）にも打鐘されたところから、当院は「十三鐘」の通称でも親しまれている。
なお、大御堂前庭には、春日神鹿をあやまって殺傷した少年三作を石子詰の刑に処したと伝承される塚がある。元禄時代、近松門左衛門がこの伝説に取材して、浄瑠璃「十三鐘」を草したことは有名である。
法相宗大本山　興福寺

菩提院大御堂（室町時代）/昭和41年大岡實建築研究所設計の興福寺菩提院（RC造）

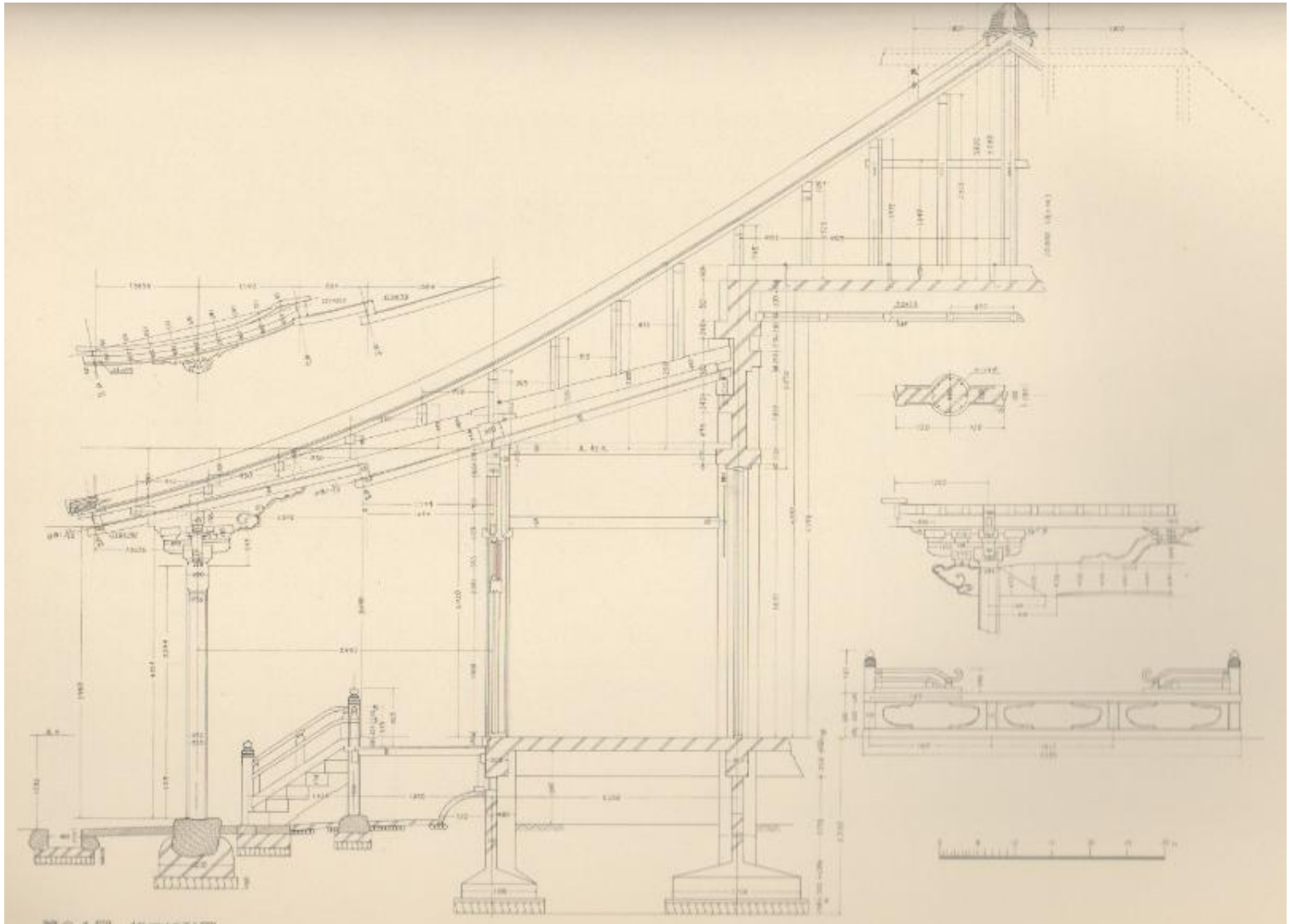
「興福寺菩提院大御堂は天正8年（1580）建立の仏堂だったが傷みが激しく建て替えられる事になった。工事はS42.5～S45.3に行なわれ、内陣を鉄筋コンクリートとし外部に旧来の木造部分が残された。その工事の設計監理を大岡博士が行なっている。」
興福寺菩提院大御堂復興工事報告書より



第58図　陵工平面図



組立工事の工事請負者名として奥義弘氏の名があり、興福寺仮本堂、念法真教如来堂や延命寺本堂（大阪府河内）で助手を務めた大庫建設の技術者である



第64図　設工矩計図

五重塔（国宝/室町時代）

『「東寺五重塔」に続いて我が国二番目の高さを誇っております』

東金堂（国宝/室町時代）

興福寺国宝特別公開
特設売店

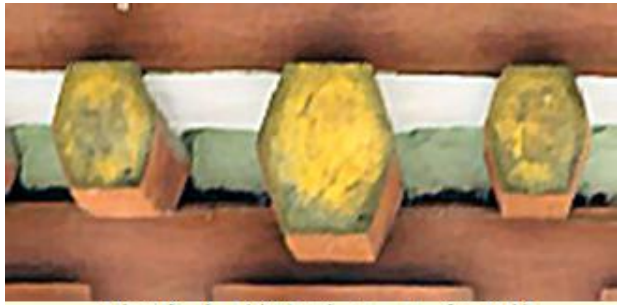
三重塔（国宝/鎌倉時代）

平安時代に創建された「三重塔」は和様化の現われで初層には周り縁が付くようになった初期の建築です。再建も平安時代の建築様式で施工されております。

各重の「桁行・間口」の逓減率は、「五重塔」の初重、四重、五重が、この三重塔の初重、二重、三重に採用されており、初重目と二重目の桁行・間口の逓減率が大きくなっておりますのが、写真でお分かりになることでしょう。このことは、五重塔を意識したかそれか裳階を意識したのかどうでしょう。法起寺(ほうきじ)三重塔も法隆寺五重塔の初重、三重目、五重目の形をそのまま用いて造られております。

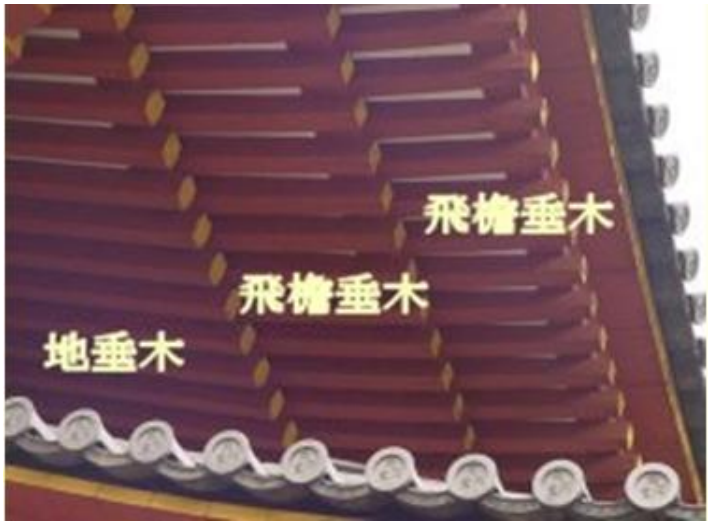
北円堂（国宝/鎌倉時代）

『建物は鎌倉時代には珍しい八角円堂で、屋根の軒に特徴があります。それは三軒(みのき)で、通常は地垂木と飛檐(ひえん)垂木の二軒(ふたのき)の構成であるのに対し、飛檐垂木が二つもあります』



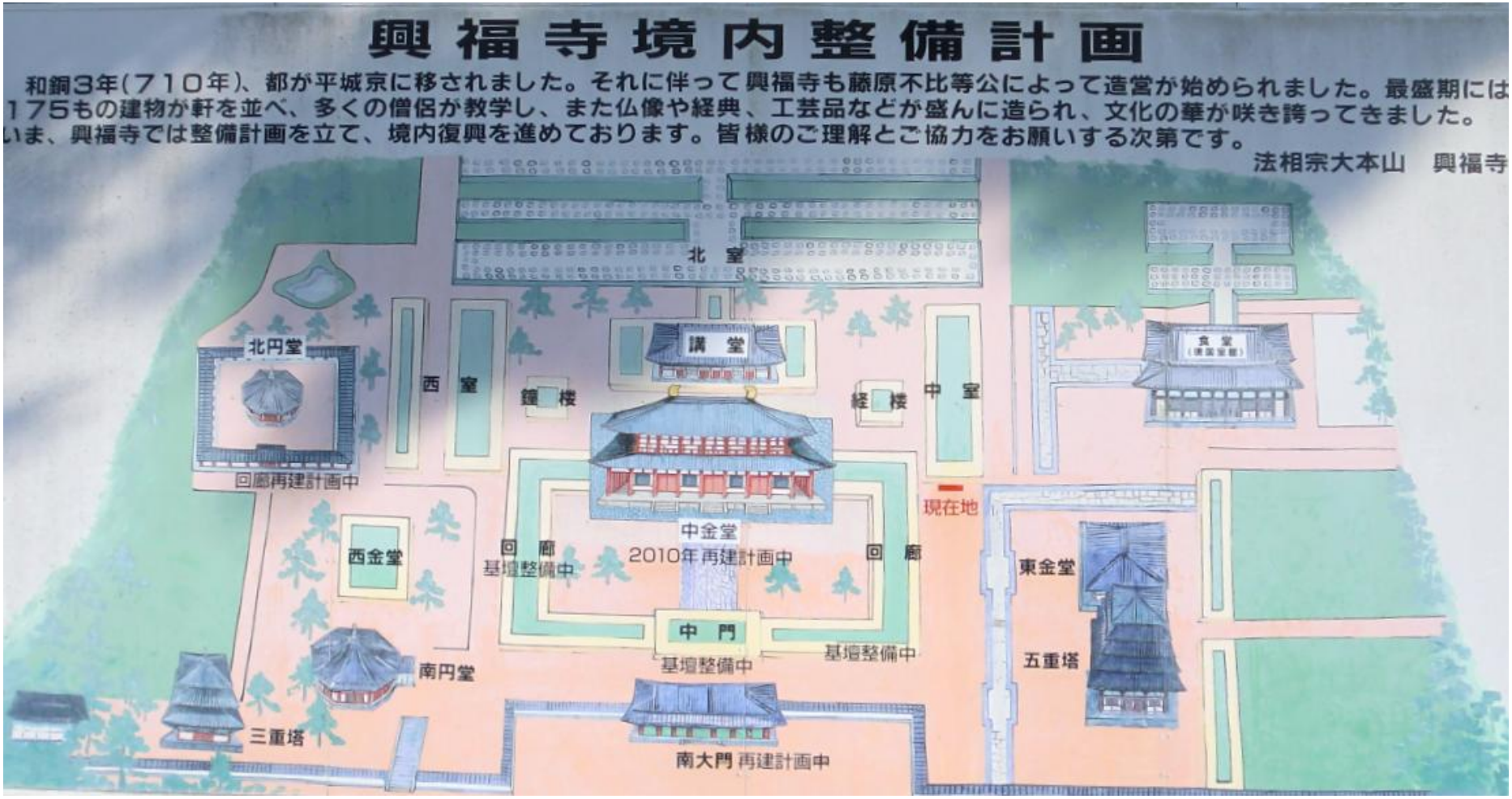
地垂木(縦長の六角形)

「平安時代に、地垂木の断面が円から楕円、角と変化しましたが、当堂の場合は六角形です」



南円堂も同じ

南円堂（重文/江戸時代）



参考資料

http://www.eonet.ne.jp/~kotonara/koufukuji.htm

阿修羅像（あしゅらぞう）

【制作時代】 奈良時代
【安置場所】 国宝館
【文化財】 国宝
乾漆造 彩色 奈良時代
像高 153.4cm

©飛鳥園

1

2

3

4

5